

<開催報告>

地域・社会課題解決カンファレンス～地域密着型エコシステムの創出に向けて～

九州経済産業局
総務企画部 企画調査課

地域・社会課題が多様化・複雑化し、自治体単独での対応が困難となる中、地域で持続的に課題解決を行うためには、様々な関係者の連携が重要です。本カンファレンスでは、全4回にわたり、地域・社会課題解決と収益性確保の両立を目指す「ローカル・ゼブラ企業」や中間支援団体をゲストスピーカーとして招聘し、会場参加者も交えた対話を行うことで、地域・社会課題解決の担い手を支援するエコシステムの創出に向けた方策を模索します。

第1回は、NPO法人ETICの山内幸治氏を講師に招き、現地とオンラインの同時開催で実施しました。

第1回 2024年8月19日(月)福岡

「ローカル・ゼブラ企業の育成とその生態系づくり」

第1部 [現地・オンライン同時開催]

■ 基調講演「地域におけるゼブラ企業の育成とその生態系づくり」 (NPO法人ETIC.シニア・コーディネーター/Co-Founder 山内幸治氏)

- ETIC.が取り組む「エコシステム」づくり
- ゼブラ企業とは何か、なぜいまゼブラ企業なのか
- ローカル・ゼブラ企業の事例紹介
- 「エコシステム」はどう育つのか

■ 中小企業庁による施策紹介



第2部 [現地のみ開催]

■ 双方向対話型カンファレンス

講師：山内幸治氏、ファシリテーター：株式会社エーゼログループ

- 基調講演を掘り下げる話題提供・ディスカッション
- 会場全体でのディスカッション・質疑応答

◆参加者からのコメント等（現地参加17名、オンライン参加36名）

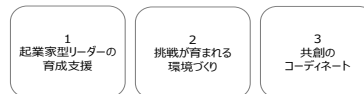
- 自治体の大小にかかわらず、熱意や仕組みを作ることによってエコシステムを作っていくことができるようになった。
- ローカルの規模の小さい自治体における優良事例やそのポイントについて、詳しく教えていただき、大変勉強になった。もっと多くの事例を知りたい。
- ローカルゼブラ企業の具体的な事例などお聞きすることが出来て、イメージが湧きました。
- ゼブラ企業についてはじめて耳にしましたが、今後このような取り組みを推し、その輪が広がることで、地域を盛り上げたいと思いました。
- エコシステムをどのように作っていくか難しいが、必要であることを再認識できた。講演を聴いて、悩みながら進めなければならない、と勇気をいただいた。
- 予算化以外の手法があるとわかったため、検討の余地があると思った。民間企業の方の参画意欲を感じる事ができたため。
- 官民相互の困り事、悩みを繋いだ上でローカルソーシャルベンチャーを応援する座組を検討できればと思いました。
- 地域(自治体)と事業者(民間企業)はお互いのことを知ろうと思っているが、その機会が十分でないことをもったいないと思った。

※原文のまま記載

今日お伝えしたいこと

- ・生態系(エコシステム)は生き物。その状況に目を配らせることが必要
- ・それは目に見えない資本(知的資本・関係資本・信頼資本・文化資本等)を高めていくということ
- ・機能(目に見えるもの)だけでなく、目に見えないものに意識を置く人たちが重要

ETIC.の3つの事業領域



ETIC.のアプローチの特徴



Coordinator

私たちは、「コーディネーター」という役割を大切にしています。

個と個をつなげる、個と組織をつなげる、組織と地域をつなげるなど、異なるものをつなげて新しい価値を生んでいく存在です。

ローカルベンチャーとは？

地域の資源(自然資本/文化資本/関係資本)を活用し、地域の新たな経済や安心豊かな暮らしを創造する事業

ゼブラ企業とは何か？

ゼブラ企業とは、短期間で企業価値の向上を目指すユニコン企業と異なり、経済性・社会性を両立し、集団として共存(相利共生)し、長期的視点で持続的な繁栄を重視することを目指す新しい企業モデル。

ゼブラ企業に明確な定義や認証制度などはない
大切にしている経営者やメンバーの4つのマインドセット

- 1 事業成長を通じてよりよい社会をつくることを目的としている
- 2 時間、クリエイティブ、コミュニティなど、多様な力を組み合わせる必要があることに取り組んでいる
- 3 長期的で包摂的な経営姿勢である
- 4 ビジョンが共有され、行動と一貫している

参考：ゼブラ・アド・カンパニー / SOCIO / 中小企業庁WEB2.0

中小企業庁が示す「エコシステム」の重要性



出所:ETIC.山内氏の講演資料をもとに作成

エコシステムはどう育つのか？

- ・個々の意志に光をあてる(共感=ボラタリ-経済の源)
- ・協働学習の場づくり(三豊の海外視察、気仙沼の経営未熟塾、能登半島の「TANOMOSHI」等)
- ・小さくとも具体的な一歩を複数生み出す
- ・計画性よりも創発性を重視する
- ・目に見えない資本を育て、いかに
- ・場に意志や人材、知識、関係性などを増やししながら、個々の伴走を行う中間支援機能

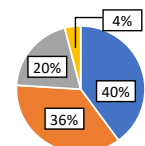


<第1部:基調講演>

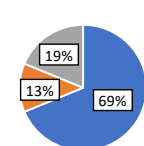


<第2部:双方向対話型カンファレンス>

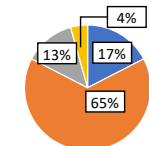
第1部の満足度



第2部の満足度



参加前後の変化



Q.本カンファレンスを通じて、地域・社会課題解決と収益性確保の両立を目指す企業(ローカル・ゼブラ企業)としての取組を進めていきましたか? そういった企業を支援するエコシステムへの参加を考えてみましたか?